町政を問う 一般質問

＊町の将来像は

高宮陽一議員

高宮陽一議員　保健・医療・福祉政策の推進や予算編成は、行政・事業所・町民の役割分担をどのように考えて行ったか。又、税の増収方策と、それを財源とする福祉政策はどのようなものか。

松田町長　全て行政負担ではなく、町民には利用料や手数料の負担、ボランティア等をして頂き、事業所にはそれぞれの事業を受け持って頂き、行政が事業に支援するような考え方の予算編成を行った。

税収対策は、企業誘致や新産業創出に取り組んでおり、これらの効果を期待し、福祉・子育て等の政策に取り組んでいく。

議員　同じ保険料を払いながら、特別養護老人ホームに入れない待機者の不均衡をどう考える。在宅介護手当て条例の廃止に反対議員が多くいたが、制度の復活をすべきでは。

町長　施設整備は困難なので、既存の他のサービスの組み合わせや短期入所等の方法を提案しながら、幅広い対応を目指す。在宅介護手当ては、時間をかけての結果だが、反対議員があり、残念だった。制度復活は、「給付と負担」の公平性や広域連合参画町村との調和も乱すので考えていない。

五箇 なごみ苑

＊遊休農地解消の方策を
＊地域格差の福祉サービスを

米沢寿重議員

米沢寿重議員　来年度から「品目横断的安定対策」と呼ばれる新しい制度が導入されることにより、集落営業の組織化と法人化が大きな課題となっているが。

松田町長　既に久見地区で取り組みを始めており、他の地区においても取り組み強化を図る。

議員　過疎化・高齢化により、耕作放棄地が増加している。「耕作放棄地対策協議会」を設置し、体制整備を進めるべきだ。

町長　農地保全については現在の体制の中で取り組んでいく。

議員　耕作放棄地や遊体農地に四季折々の花を栽培し、景観形成をはかるべきである。

町長　管理や費用の確保等、様々な課題があるので検討課題とする。

議員　農業公社の本所機能を現在の都万地区から島の中心地に移し、委託耕作を希望する農家の要望に答えるべきでだ。

町長　公社の効率的な運営を図るため、都万地区に本所機能を設置した。

議員　地産地消を進める為の「地産地消推進計画」を策定せよ。

町長　現状での取り組みを展開して行く。

議員　東郷地区デイサービスセンターは新町の建設計画の中で計画されているが、いまだ実現されておらず不公平な設置実態となっているが。

町長　地域バランスを考えると指摘の通りである。サービスの需要関係も見定めた上で、検討したい。

農業公社都万本所

＊少子化対策をはかれ

安部和子議員

安部和子議員　出雲市・美郷町は第3子以降保育料が無料だ。本町でこれを実施すれば約3200万円・第4子以降では約3000万円の負担増だが、見直す考えはないか。

次に、国は平成十九年度よりゼロ歳から1万円の助成を定めたが第1・2子は4歳から5000円に減額となる。自分で出生順序を選べない子どもの権利として、この減額分1700万円を町の支援策として提案する。

松田町長　行財政改革を推進している本町では2つの提案の導入は困難である。

議員　十八年度の歳出には1100万の赤字補填の事業もある。せめて第4子以降免除はどうか。新施策導入の為に事業の優先順位を見直すべきだ。社会的支援も充分ではない町の子育て支援策は何か。

町長　町の自主財源確保の為、若者の就労の為、若者の就労の場を確保し、安定した収入を得る事が　先決と考える。

本庁 子育て支援課

＊町長の住民説明は十分か

福田　晃議員

福田　晃議員　本町の財政は極めてきびしい状況にあり、事業の実施には直接・間接を問わず、町民に負担が及ぶこともあり、従来の手法では町政運営に限界があり「行財政改革の趣旨」について十分説明し理解いただき、町民との合意形成を図りながら進めていく事が不可欠だと町長は以前から言っているが、タワギ林道の休止など一方的で、理解を得る努力をしたとはいえない。又、都万診療所の医師体制変更の説明会の開催があまりにも遅く、理解を得るのではなく、通告と同じだ。

松田町長　「公共事業評価委員会」の検討結果を踏まえタワギ林道は休止した。関係者に迷惑をかけたが、今後決定した事は、説明等早急に対応させる。都万診療所の医師体制については、隠岐病院から医師派遣体制が決まらず、ギリギリまで遅れ、やっと方向が出るに至った。住民の方々に諸般の事情を説明し、理解を得たい。

空き屋 都万医師住宅

議員　新町建設計画の変更は、合併時に住民の意見を取り入れて作成した計画だ。変更等は事前に議会説明すべきだ。

町長　新町の総合振興計画を策定中であり議会で十分説明し審議する。住民に対しては町づくり懇談会で変更する事業については説明責任を果たす。

＊住民があんきに暮らせる医療体制を整えるためにネットワーク作りを！
＊町独自の人材育成（医師）の必要性

藤田千鶴議員

藤田千鶴議員　町民に正確に実状を周知し、理解を得、人選された担当のもと医師確保の情報収集が必要である。

松田町長　町出身である医師とか、その家族だという情報を頂き、そこから更に情報源を広げていってでも、特に産婦人科医師確保に努めたい。

議員　病気はまず予防からである。隠岐病院・診療所・保健師・住民といった地域医療の連携・体制は万全か。

町長　保健師・栄養士が医師と連携を図りながら個別指導に取り組む。

議員　新院長による経営・体制改善に期待しているが本土出産を余儀なくされている妊婦さんに安心が与えられ、選択の幅が広がる事が望ましいが対策は。

町長　助産師の情熱で「院内助産科」を開設した。今後、経験を増やし、産婦人科・外科などの連携を図り、ひとりでも多くの子供がこの島で出産できるよう期待している。

議員　本土出産があたり前となっては困る。最大の原因はわかっているがどう対処していくのか。

町長　まずは医師確保、定年を迎えられた方でもやれるという自信をもつ医師もいる。採用年齢枠をあげて隠岐での体制づくりに努める。

議員　子供達への強制ではないが早い段階での人材育成が必要、奨学金制度の見直しも含め検討すべきである。

町長　学校にはお願いしていく。安心して使える制度改正を検討する。

私達が応援します!! 助産師